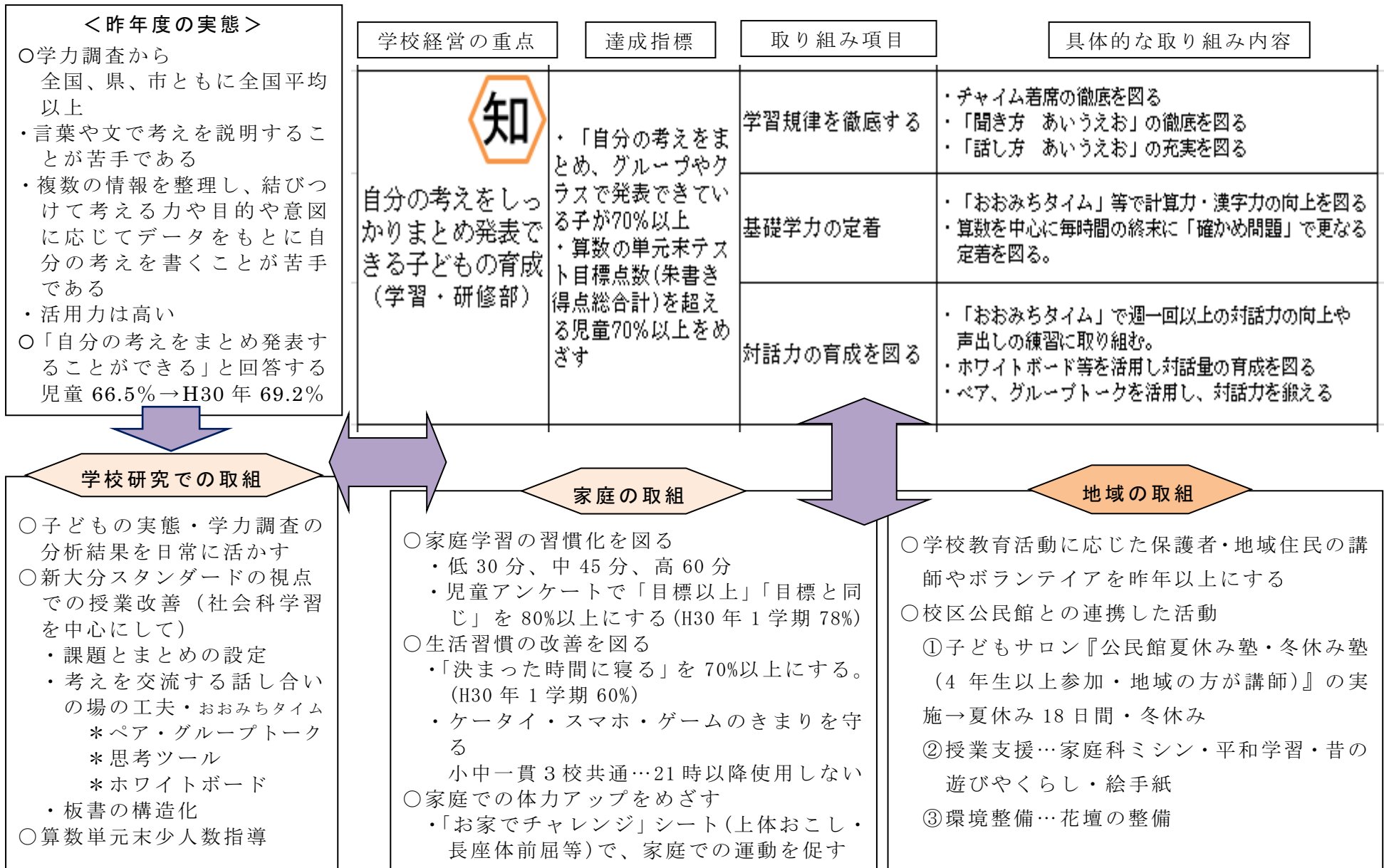


大分市立春日町小学校 学力向上プラン1 (8月)

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の状況・課題	<p>○5年の学力定着状況調査より 国語・理科については、領域・観点ともに目標値を超えているが、算数については、「量と測定」の領域において目標値を下回っている。</p> <p>【国語】文の構成や目的に応じた文章を書くことに課題が見られる。 【算数】基本的な計算において、ミスが目立つ。図形や単位換算の理解が不十分。 【理科】温度による空気・水・金属の体積変化の理解が不十分であった。</p>	<p>○「子どもアンケート」より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しい (88%) ・授業はわかりやすく楽しい (80%) ・宿題をきちんとしている。(89%) ・誰にでも進んであいさつをする (79%) ・無言清掃をする (80%) <p>▲自分の考えを伝えることに自信が持てない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業中よく発表しますか (50%) ・自分の考えを近くの友だちに説明できますか(71%) ・自分の考えをクラスみんなに説明できますか(54%)
指導の状況・課題	<p>教職員アンケートより (4段階…ほぼ当てはまるまで含めて)</p> <p>○課題解決の授業を展開し、自分で考える時間と考えをノートに書く時間を確保するように努めている。…100%</p> <p>○学力向上に向けて、指導法を工夫して取り組むように努めている。…100%</p> <p>○家庭学習の習慣化を図っている。…100%</p> <p>▲春日タイムを、計画的に、着実に、実施するよう努めている。…85%</p> <p>▲「評価テスト80点以上が80%以上、50点未満が5%未満」の目標がクリアできている。…88%</p> <p>▲月3回の「キャッチボールタイム」に取り組み、伝え合いの土台づくりや子どもの心をつなぐように努めている。…65%</p>	
今後目指す児童生徒像	<p><認め合い、支え合いながら学ぶ楽しさを味わう子ども></p> <p>○認め合う姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える姿…自分の考えや思いを根拠とともに・明確に話す子 ・受け止める姿…視点を持って、友だちの考えや思いを受け止め理解できる子 <p>○支え合う姿…友だちと考えや思いを交流し、より良い考えにしていく子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業中よく発表しますか…65%以上 ・自分の考えを近くの友だちに説明できますか…80%以上 ・自分の考えをクラスみんなに説明できますか…70%以上
今後の具体的な取組	<p>①学習状況改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の定着・向上→授業はわかりやすく楽しい…90% <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導法の工夫改善 ・教師の授業力の向上に向けた校内研修の充実 ○お互いに認め支えあう学校・学級集団づくり→学校が楽しいと感じる児童95%以上 <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の心の安定を図る学校・学級集団作り ○最後までがんばることのできる体力づくり→休み時間に外で元気に遊んだり、すすんで運動したりしている…85%以上 <ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しみ、自ら運動できる児童の育成 <p>②授業改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業改善3つの視点の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・「1時間完結」型授業の徹底 (課題とまとめ) ・板書の構造化、学習のねらいがわかる板書 ・学びのあとが見えるノート指導 <p>③その他の学習指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得だけに終わらず、実験や操作活動を通して楽しみながら学習できる授業を心がける。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れる。 ・「春日タイム」(モジュール学習)を計画的に実施 →90%以上の実施 ・少人数指導の充実と個別指導による学力の定着 →授業、休み時間などに実施 ・フォローアップシート(国・算・理)を弱点克服のための学習に活用する。 ・「読書タイム」読み聞かせを中心とした読書活動の推進 →図書館利用(低90、中80、高70冊以上) ・家庭と連携した家庭学習の取組み 低学年…20分以上+10分(読書)、中学年…40分以上+10分(読書)、高学年…1時間以上+10分(読書) <p>④学び合いの土台づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えのキャッチボールの意識 ・考えのキャッチボールのめあて ・朝の対話活動「キャッチボールタイム」 ・春日タイム 計算練習 ・声のものさし 	
家庭・地域との協働	<p>①家庭との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の徹底、学習習慣を身に付けさせる。 ・基本的生活習慣の確立を図る。 朝食を毎日食べる 就寝時刻を早くして睡眠をしっかりとる ・家庭と連携して、忘れ物を減らす。 <p>②地域との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺子屋かすが(夏休み中の学習支援) ・地域人材を活用した学習支援 ・「読み聞かせ活動」や「ふれあい学びの広場」による体験学習。 	

学校教育目標

主体的に学び合い 共に高め合う 心豊かな大道っ子の育成



学力向上プラン【2学期版Ⅱ】

大分市立森岡小学校

〔平成30年度〕

平成30年度 5年大分県学力定着状況調査より

教科	森岡小	目標値	県平均	偏差値
国語	78.6	68.9	76.4	53.0
算数	71.0	67.4	69.4	52.7
理科	82.3	69.5	73.7	56.1

○平均正答率は県平均を概ね上回っている

●算数の計算の技能や図形の知識・理解の正答率が低い

平成30年度 6年全国学力・学習状況調査より

	国語		算数		理科
	A	B	A	B	
本校	75.0	55.0	73.0	57.0	71.0
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

(数値はいずれも対全国値)

○国・算・理において全国平均を大きく上回っている

●国語の「話す・聞く」の理解度が低い

平成30年度 単元末評価テスト結果より

- 単元末評価テストの目標値に対し達成指標80%以上に達していない学年及び教科に対する取り組み及び50%以下の児童の個別指導の取り組みの工夫が必要である。
- 学年が上がるほど上位層と下位層に分かれており、前学年の基礎基本事項が十分に身につけていない児童がいる。
- 特に達成指標50%未満の児童に対する個別支援を2学期工夫していく(時間と場所・方法)
- 低学力層の児童の多くは生活習慣・家庭学習が確立していない傾向がある。家庭学習の確立と併せて、生活習慣の確立を保護者と共に進める。
- これまで同様、児童の学力向上のため学習規律の確立と教師個人の授業力向上に向け、互見授業等で研鑽を積む。

本年度達成指標

学力調査において全実施教科の結果が全国平均(県平均)を上回る
本年度実施の単元末評価テストにおいて、目標値を達成する児童の割合を80%以上にする。

教職員の重点的取組み

① 授業改善

- **めあて**→**課題**→**まとめ**→**ふりかえり**の整合性のある授業
- **課題設定**及び**学びあい**の工夫・改善

② 基礎・基本事項の定着

- チャレンジタイム及び個別学習の充実
- 家庭学習の習慣化

家庭・地域との継続的連携

① 基本的生活習慣の確立

(早寝早起き朝ごはん定着状況90%以上)

② 家庭学習の習慣化・充実

(家庭学習チェック週3回以上。)

③ 学校公開時の授業参観・見守り

具体的な取組み

【授業改善】 テーマ**課題(中心発問)・話し合い活動を工夫した学習指導のあり方**

○ **めあて**→**課題**→**まとめ**→**ふりかえり**の整合性のある授業

- 1時間完結型授業(課題とまとめ)の徹底、一人1回以上の互見授業の実践に取り組む。(「大分市授業づくりの5つのポイント」を意識した授業)
- 授業中に自分の意見を言う場を設定する。(「自分の考え・意見・感想などが言える」と答える児童90%)
(全体だけでなく、ペア・3人・グループ・活動等の場の設定を工夫し、1時間の中で1回以上自分の考えを発表する機会を設ける)

○ **課題設定**及び**学びあい**の工夫・改善(校内研)

- 子どもの意欲や考えを引き出す課題設定の工夫を行う。
- 意見交流の場を設定し、全教科においても学びあい活動の充実を図る。(ペア、3人、グループ、活動等)
- 互見授業・学力向上支援教員による授業観察及び指導助言による授業力向上

【基礎・基本事項の定着】

○ 基礎基本事項の定着

- 単元末評価テスト結果をもとにどれぐらいの子どもがどの程度の基礎事項が定着できていないのかを把握する、特に50%未満の児童に対しチャレンジタイム・昼休み・放課後を利用して補充学習に取り組む。
- 家庭学習の状況を把握し放課後及び昼休み、家庭学習の補助を行う。家庭と連携し週3回家庭学習の点検を行う

【その他】

- 学習規律アンケートを実施し、全校で統一した学習規律の徹底を図る。
- 教育活動全体につなげる道徳教育の充実。
- 様々な体験活動、多様な地域のあり方に触れる機会を設ける。

学びの土台づくり

※「学校・家庭・地域の協働・連携 無くしては不可能な事柄である」という認識を共有する

- ① 基本的生活習慣の確立と継続
- ② 学び合える共感的な学習集団の確立
- ③ よりよい食習慣の確立

大分市立津留小学校 学力向上プラン1 (8月)

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・理由等を記述して説明することを苦手としている。 ・国語では、「書くこと」の領域の正答率が低い。 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 ・授業で「わかった」「できた」と感じる児童は93%。 ・「授業で自分の考えが持てた」と回答した児童は89%。	1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・授業の予習、復習への取り組みが低い。 ・わからない言葉を辞書で調べていると回答した児童の割合が低い。
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・課題、児童の発言、まとめを位置付けるなどして板書の構造化を目指してきた。 ・互いの考えを伝え合う場を授業の中に位置付けてきた。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・学習規律の徹底をはかってきたが、全教職員による継続的な取り組みが必要。 ・週末読書の取組の推進。 ・低学力層の児童の個別指導の継続。	



学力に関する達成指標	○単元テストの学期末平均正答率が各教科とも70%以上の児童を90%以上にする。
------------	---



	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の具体的な取組	(授業改善テーマ)一人ひとりが考えをもってともに学び合える授業 (授業改善の重点)一人ひとりに自分の考えを持たせる手立てや互いの考えを伝え合う場の工夫	(達成指標)※必要があれば
	(取組内容) 一人ひとりが自分の考えを持てるような手立てを工夫する。	(取組内容) 互いの考えを伝え合う場を工夫する。
	(取組指標) ・週に1回以上、ICT機器や視覚的教具を活用した授業実践をする。 ・ぐんぐんタイムにおいて、月2回以上書く活動を取り入れる。	(家庭・地域の取組内容) 家庭学習で、学習内容の定着を図る。
	(取組指標) 毎日1度は「自分の考えを書き表す場」と「互いの考えを伝え合う場」を授業の中に取り入れる。	(家庭・地域の取組指標) 毎日、家庭学習のノートやプリントで定着状況を確認し、定着していない児童に個別指導をする。
	【その他の学力向上の取組】 ○補充学習の時間を設け、下位層の児童に個別学習を行う。 ○毎月1回は、レベルアップ講座を開催し、職員同士で互いの技量を高め合う。 ○毎学期1回以上ABC週間を設定し、学習規律(A:合図、B:準備、C:姿勢)の習慣化を図る。 ○子どもの学習状況に合わせて、習熟度別に学習できる場をつくる。	

平成30年度 大分市立舞鶴小学校 学力向上プラン（I）

1 学力の状況

【本校児童の実態から】	【大分県学力定着状況調査結果から】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算力の弱さが課題であったが、朝のドリルタイムに自らめあてをもって取り組む子どもが増えた。また、達成感も高まりつつある。 ・ 学力の個人差が大きく、算数や国語の評価テストで目標値に達していない児童の層があり、底上げが大きな課題である。 ・ 学習に向かう姿勢や意欲の面で課題がある。また、授業でも子ども同士が練り合う場面が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均正答率で3教科とも県平均を上回った。（国語＋7. 2、算数＋3. 2、理科＋6. 1） ・ 国語の「書くこと」では14. 4ポイント、「漢字を書く」問題についても16. 9ポイント県平均を上回ることができた。 ・ 算数の「図形」領域が県平均及び目標値に達しておらず、面積の問題において単位の換算や対角線の特徴等に弱さが見られた。

2 学力に関する達成指標

- ・ 1学期の国語・算数評価テストの目標値達成児童80%以上
各学級とも平均80点以上は達成できているが、低位の層の児童もあり、上位との差が大きい。
- ・ 1学期の児童アンケートで「スキルタイムでの達成感を感じる児童」児童90%以上
1学期の達成状況・・・肯定的な回答89%（◎53%、○36%）
- ・ 1学期の児童アンケートで「授業がよく分かる」児童90%以上
1学期の達成状況・・・肯定的な回答94%（◎67%、○27%）

3 今後の具体的な取組

（1）学校の取組

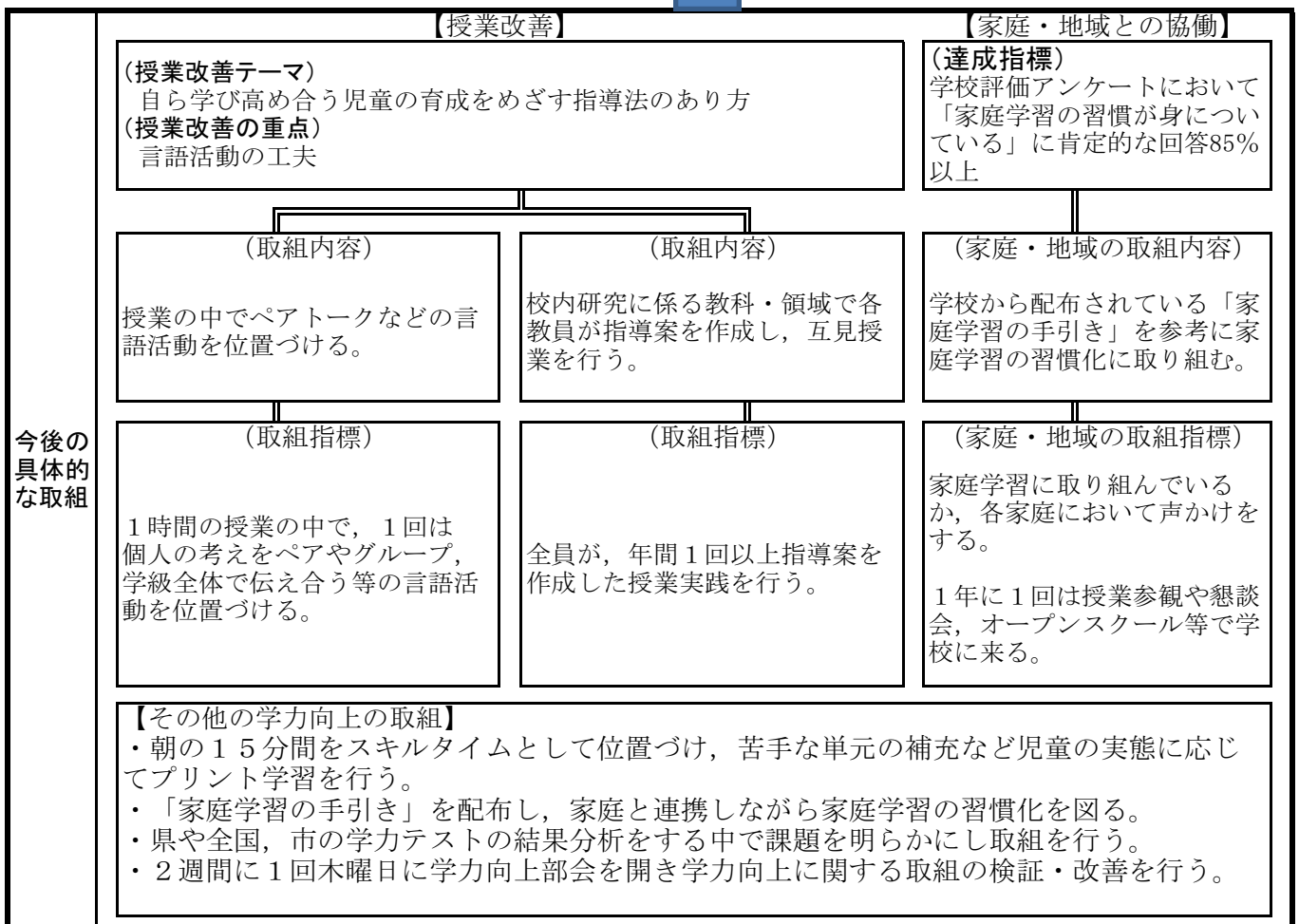
- 校内研修を中心とした組織的な授業改善の推進、教師の授業力の向上
 - ・ 1時間完結型授業の徹底～「めあて・課題ーまとめ・ふりかえり」のある授業実践を継続していくとともに、児童が考えを深められる「課題」の質についても研究を進める。
 - ・ 主体的な学びの場の保証～考えや思いを十分書き表せるようなワークシートを工夫していくとともに、ペアやグループによる話し合い活動の場を保証し、主体的な学習参加を促す。
 - ・ 互見授業の実施～授業改善の取組状況をお互いに確認しあうとともに、若手教員がベテラン教員の授業に学ぶ機会とし、人材育成を進める。
- 基礎・基本の定着
 - ・ 週3回の「スキルタイム」の充実を図り、学習意欲の向上及び学力の定着を図る。
 - ・ 少人数指導や隙間時間を活用した個別指導を実施し、学習理解を促す。
- 小中一貫教育による系統的な学習指導の推進
 - ・ 年2回（8月、1月）の合同研修会で地域の児童生徒の課題を明らかにし、解決策を講じて地域全体で学力の底上げに取り組む。
 - ・ 城東中校区合同授業研究会に全員参加することにより、今後の授業実践に資する。

（2）家庭・地域との協働

- 家庭との連携
 - ・ 「家庭学習の手引き」を活用して家庭学習習慣の確立を図り、学習内容の一層の定着を図る。
 - ・ 日常の授業についても家庭の中で話題にし、学習に対する関心・意欲が高まるような雰囲気醸成する。
- 津留公民館等との連携
 - ・ 夏季休業中の「寺子屋（2週間）」、「体験教室」の実施

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生においては算数に課題がある。特に面積や小数、分数の計算の定着率が低い。6年生は県、全国ともにクリアしている。しかし、自分の考えを式や言葉で説明するような記述式の問題の正答率が低い。 <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業が楽しくわかりやすい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は84%。「単元末評価テスト平均点85点以上」では50%、「平均80点以上」では100%の達成率であった。 	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学習の意義」や「テストなどでの間違いのやり直し」などの項目では県などの数値を上回っていた。しかし「家庭学習の時間の目安を決めている」や「予習や復習をする」「辞典を引いて答える」という質問に肯定的に答えた児童の割合が県などに比べて低い。 ・ 「平日のテレビやDVDに費やす時間」は半分の児童が0～1時間である一方、3時間以上と極端に多い児童も20%おり、二極化の傾向にある。
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝え合い、高め合う表現力の向上」については児童の言語活動の充実に取り組んできた。ペアトークを中心に、1時間の授業の中で互いの考えを伝え合う活動を設定した。取組状況としては、各教員がそれぞれの授業の中でペアやグループ、学級全体での話し合い活動を意識しながら授業をすることができた。 ・ ホワイトボードの活用など言語活動の工夫については取組の差があったので今後の課題となる。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スキルタイムでの視写の取組については全学年で達成することができた。家庭学習の取組については、各学年で定期的に検証・改善をしながらすすめてきた。学年によって差があるものの児童アンケートでは90%近くが肯定的な回答をしているが、保護者との認識のずれもある。 	

学力に関する達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語や算数等の単元末評価テストの平均を85点以上にし、50点以下を5%以下にする。 ・ アンケートで「授業が楽しくわかりやすい」の質問に対し肯定的に答える児童の割合85%以上にする。
------------	--



大分市立坂ノ市小学校 学力向上プラン

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	1. 各種学力状況調査結果から ・国語・算数ともに、6年B問題、4・5年活用力を問われる形式の問題、思考力表現力が必要な問題ができていない。 (−1.5〜−4.8点) ・国語科では、「漢字の読み書き」を苦手としている。(−3.4点) ・算数では、「量と測定」を苦手としている。(−1.8点) 2. 単元末テスト結果から ・国語では、「書く」「言語」で目標値に届かない学年がある。 ・算数では、4〜6年で「数学的な考え方」が目標値に届かない。 ・各学級に50点未満の児童が1〜3名いる。	1. 各種学力状況調査アンケート結果から ・成功体験や感動体験が少なく、自分に自信がない児童が多い。 ・思いを伝える力や問題解決力が低い。 2. 児童アンケート、学習アンケートの結果から ・「学校に行くのが楽しい」と答えた児童…85.4% ・「授業はわかりやすい」と答えた児童…88.7% ・「本を読むのが楽しく、たくさん本を読んでいる」…76.7% ・「進んで話し合いに参加し、自分の考えを発表する」…82.3%
指導の状況	1. 組織的な授業改善 ①指導方法の工夫・改善。 3年…少人数指導(等分) 4年…TT指導 5年…少人数指導(2学期より) 6年…習熟度別指導(2学期より) ②生徒指導の三機能を生かし、子どもが主体的に学ぶ授業展開。 (達成率…64%) ③「めあて」「課題」「まとめ」を位置づけた1時間完結型の授業展開。 (達成率…88%) ④板書の構造化とノート指導。(達成率…64%) ⑤一人1回以上の公開授業。(提案授業 or 互見授業)	2. その他の学力向上に向けた取組状況 ①ペアやグループ活動を取り入れた指導。 ②小中一貫教育による9年間を見通した学習指導の取組強化。 ③学習規律の徹底。 ④読書活動の推進。(学年ごとの年間目標の設定) ⑤チャレンジタイム(朝時間)に基礎基本の定着を図るドリル・プリント学習の実施。 ⑥ユニバーサルデザインを取り入れた学習、学習環境。

学力に関する達成指標	○各種学力調査 4年…大分市標準学力調査 …市平均点以上 5年…大分県学力定着状況調査 …県平均点以上 6年…全国学力・学習状況調査 …全国平均点以上 ○単元末テスト 学年平均点80点以上 80点以上の児童80%以上 50点未満の児童5%以下	○教師の授業力向上 ・「めあて」「課題」「まとめ」を位置づけた板書(実施率100%) ・生徒指導の三機能を生かした授業(実施率80%以上) ・一人1回以上の公開授業(実施率100%) ○その他 ・読書量のアップ(学年目標達成率90%以上) ・家庭学習の提出(100%)
------------	---	--

	【授業改善】	【家庭・地域との連携】	
今年度の具体的な取組	(授業改善テーマ) 生徒指導の三機能を取り入れた主体的・対話的な学びを (授業改善の重点) 促す授業づくり 1 主体的な学びを促す授業の推進 2 対話的な学びを位置づけた授業の推進	(改善テーマ) 家庭・地域・学校の協働の下、保護者や地域住民が参画し、地域全体で子どもを育てる	
	(取組内容) 《自己決定・自己存在感を感じる授業》 ○多様な考えの出せる学習課題がある授業 ○「めあて」「課題」「まとめ」を位置づけた1時間完結型の授業 ○自分の考えをまとめ、書いたり話したりする活動がある授業	(家庭・地域の取組内容) ○家庭の教育力の向上 ・家庭学習の励ましと見守り ○積極的な学校支援 ・学習サポーターやボランティア活動への積極的参加	
	(取組指標) ○多様な考えが出せる学習課題の提示(90%以上) ○「めあて」「課題」「まとめ」を位置づけた構造的な板書(100%以上) ○個の考えをまとめたり、書いたり話したりする活動(100%)	(家庭・地域の取組指標) ○「早寝」「早起き」「朝ごはん」を中心に、生活リズムの定着(95%以上) ○学習サポーターや地域人材を活用した授業の実施(各学年1回以上)	
	【その他の学力向上の取組】 ○言語活動を支えるスキルやマナーの向上(聞き方・話し方のスキル学習、学習規律の徹底) ○教師の授業力向上研修(一人1回以上の公開授業、3教科部会での教科研修) ○基礎・基本の定着を図る個別指導や補充学習(チャレンジタイムの内容の吟味と確実な実施、家庭学習の確実な実施等) ○小中一貫教育の推進		
今年度の取組内容	《多様な考えが出せる学習課題の提示》 ○学習課題を検討し、授業に臨む。 ○授業後に評価し、次に生かす。 《「めあて」「課題」「まとめ」の位置づけ》 ○カードを位置づけ構造的な板書にする。	《考えを持たせる時間の確保》 ○考える時間を確保する。 ○考えを書く活動を行う。 《ペアやグループによる言語活動》 ○ペアやグループでの交流を行う。	《家庭教育力の向上》 ○生活習慣の定着(早寝・早起き・朝ごはん) ○宿題提出率の向上 《外部人材の活用》 ○学習サポーター、読み聞かせボランティア